

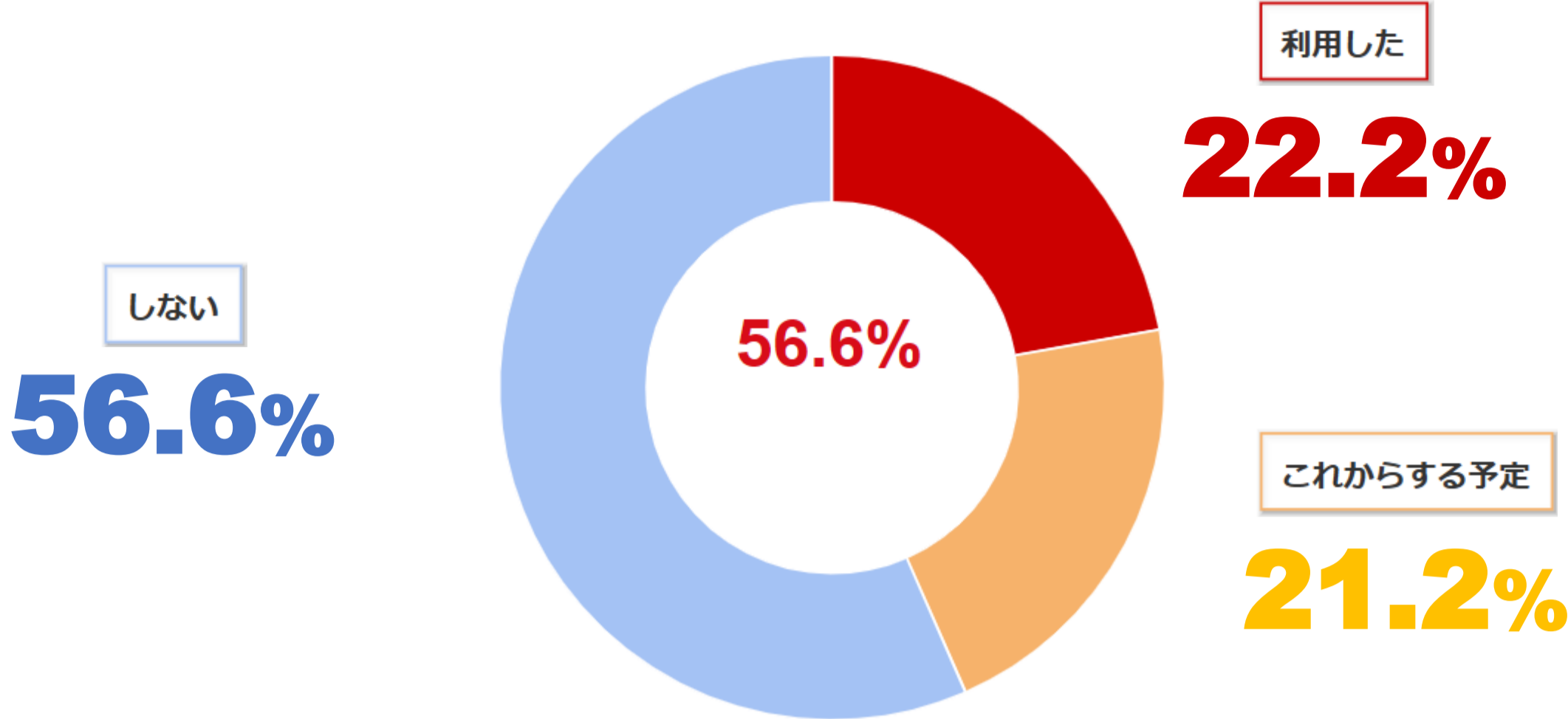
2022年 ふるさと納税実施調査結果

【回答期間】

2022年12月12日～2023年1月19日

2022年ふるさと納税の利用状況

－今年（2022年）、ふるさと納税を利用しましたか？

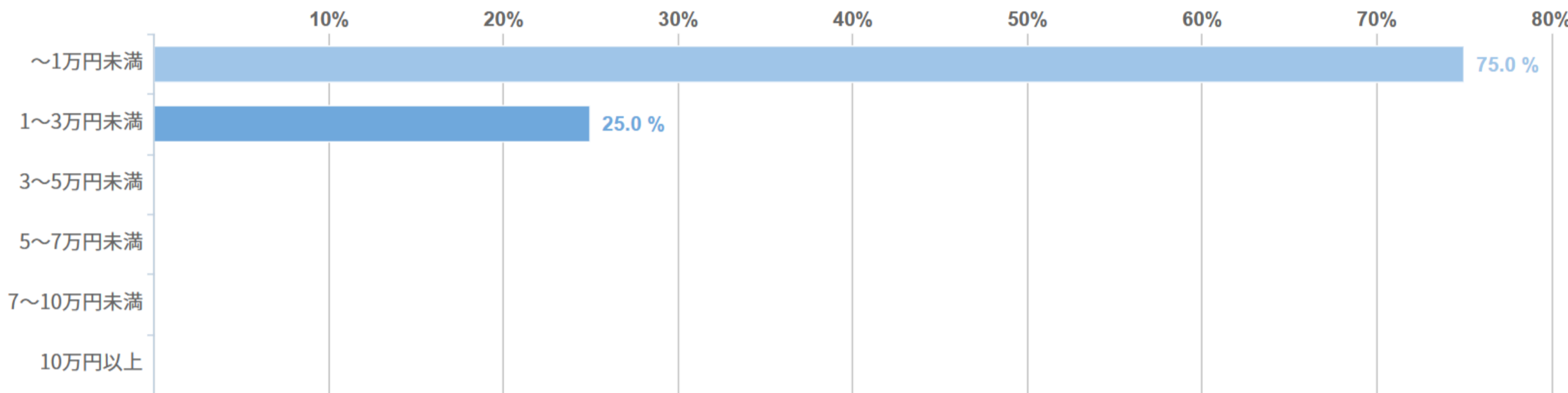


ふるさと納税を利用(予定)の方

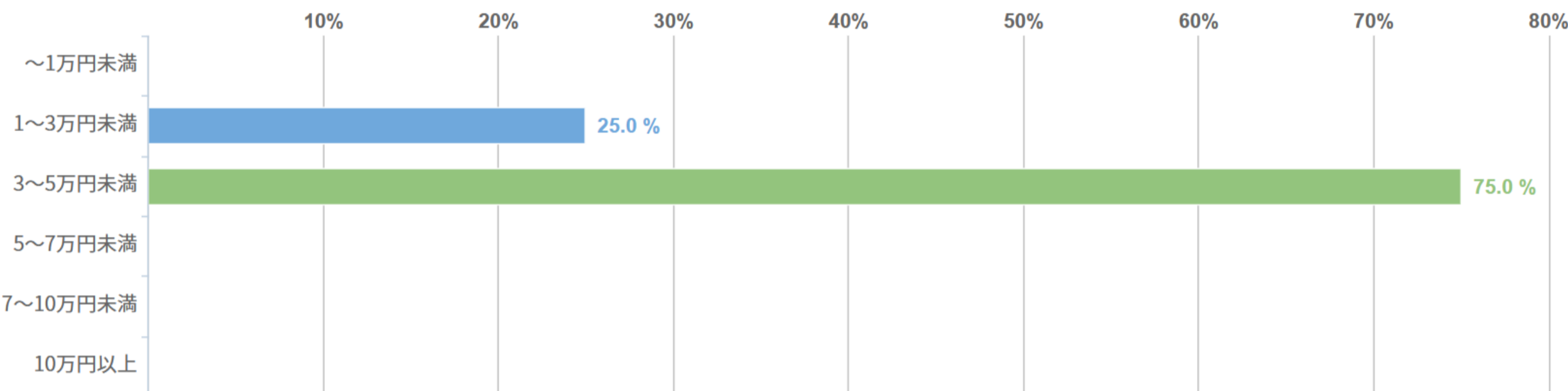
【所得額別】2022年ふるさと納税金額

－今年(2022年)した、ふるさと納税金額を教えてください

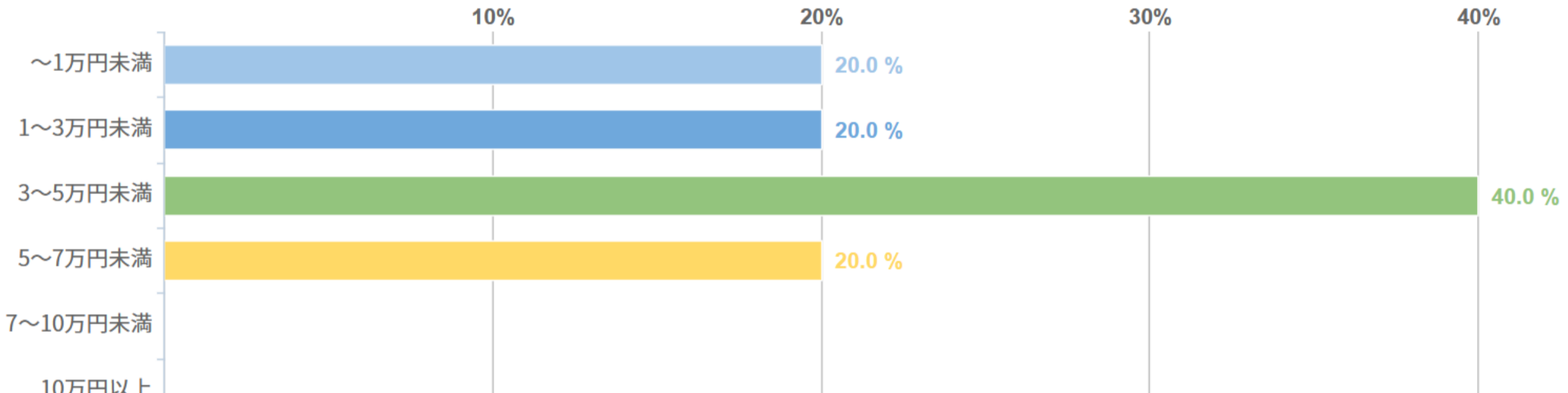
▼ 課税所得(予測) ～100万円以下



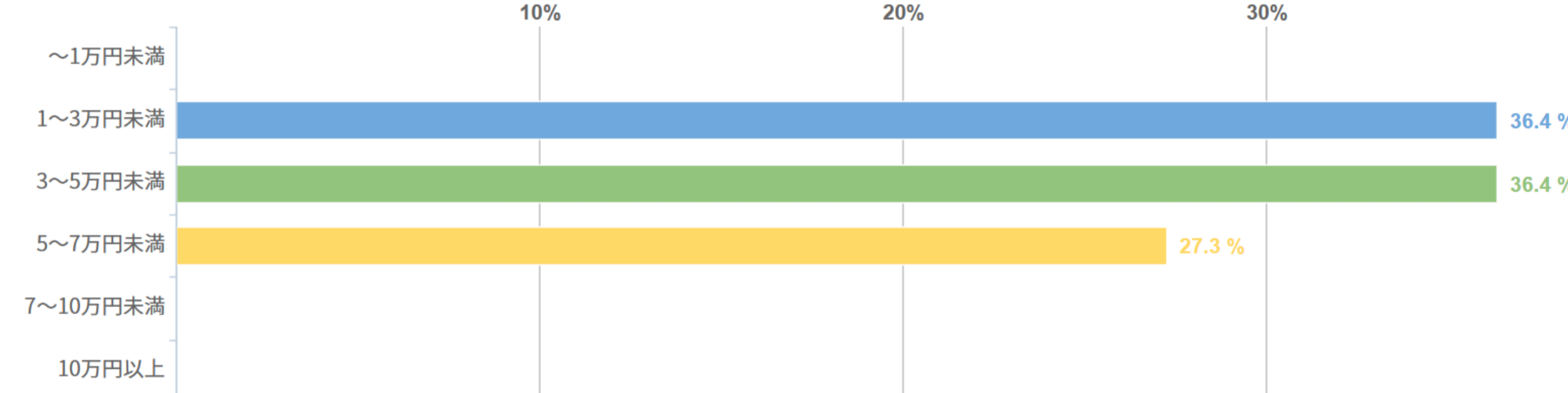
▼ 課税所得(予測) 101～200万円以下



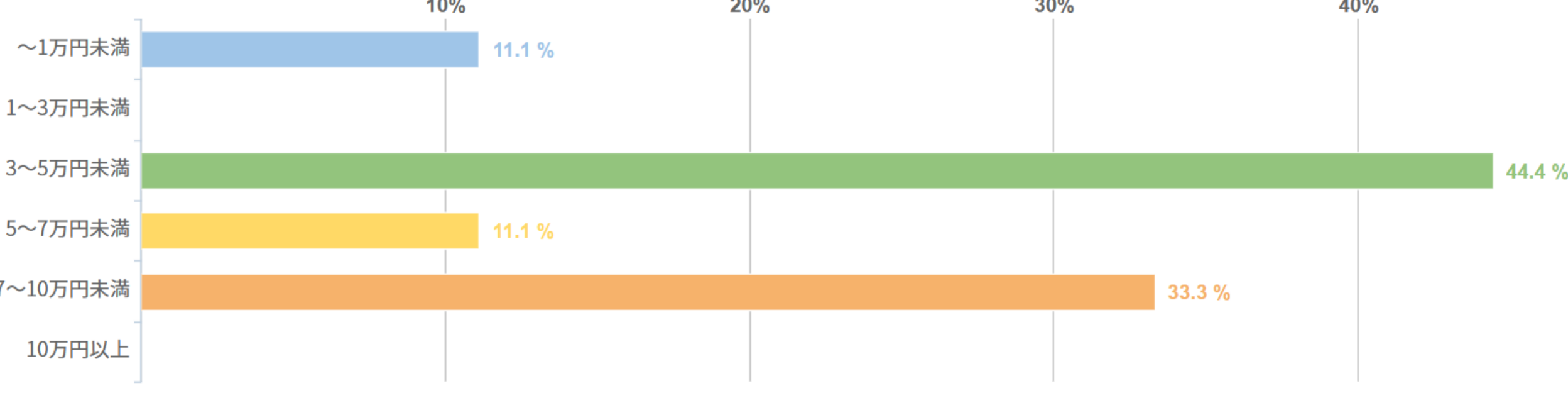
▼ 課税所得(予測) 201～300万円以下



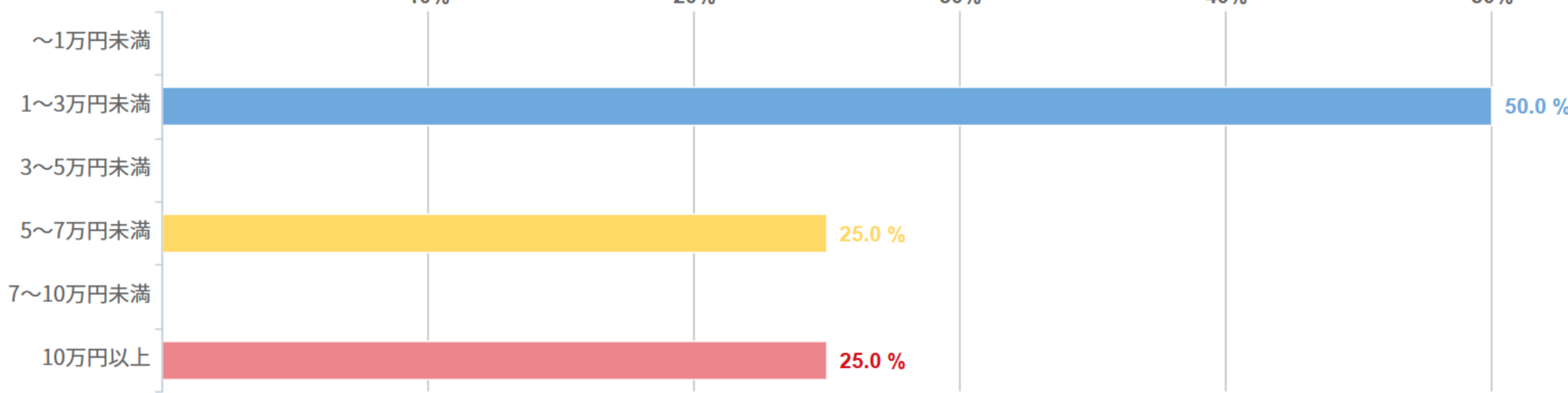
▼ 課税所得(予測) 301～400万円以下



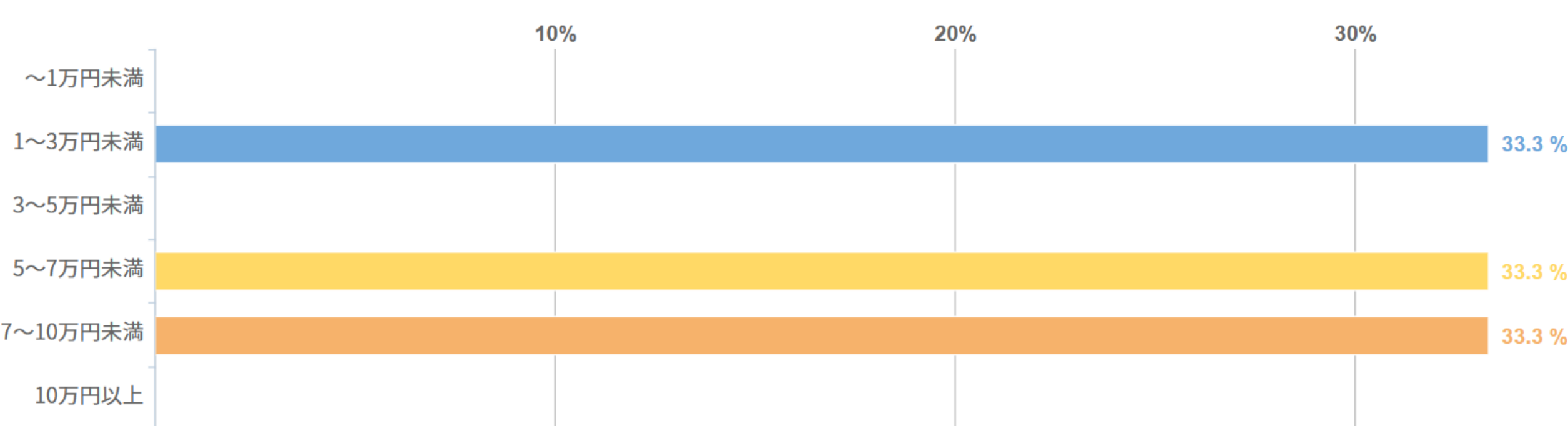
▼ 課税所得(予測) 401～500万円以下



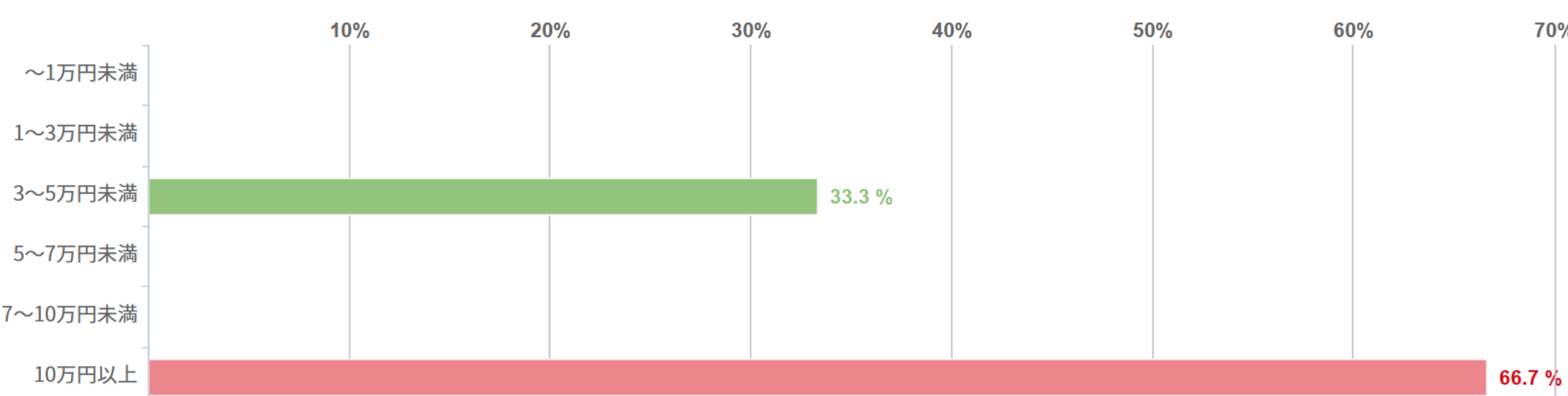
▼ 課税所得(予測) 501～600万円以下



▼ 課税所得(予測) 601～700万円以下



▼ 課税所得(予測) 701万円以上

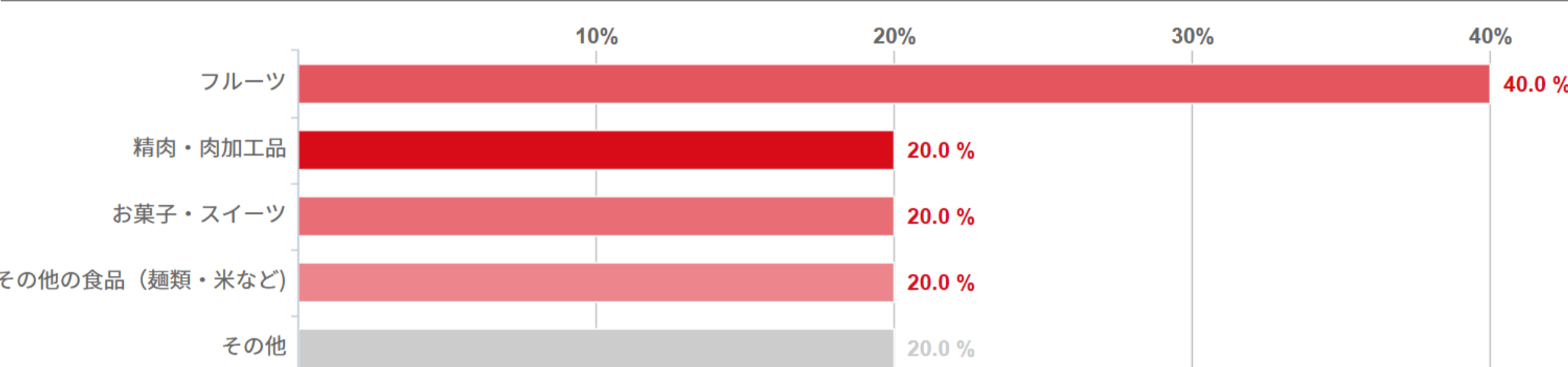


ふるさと納税を利用(予定)の方

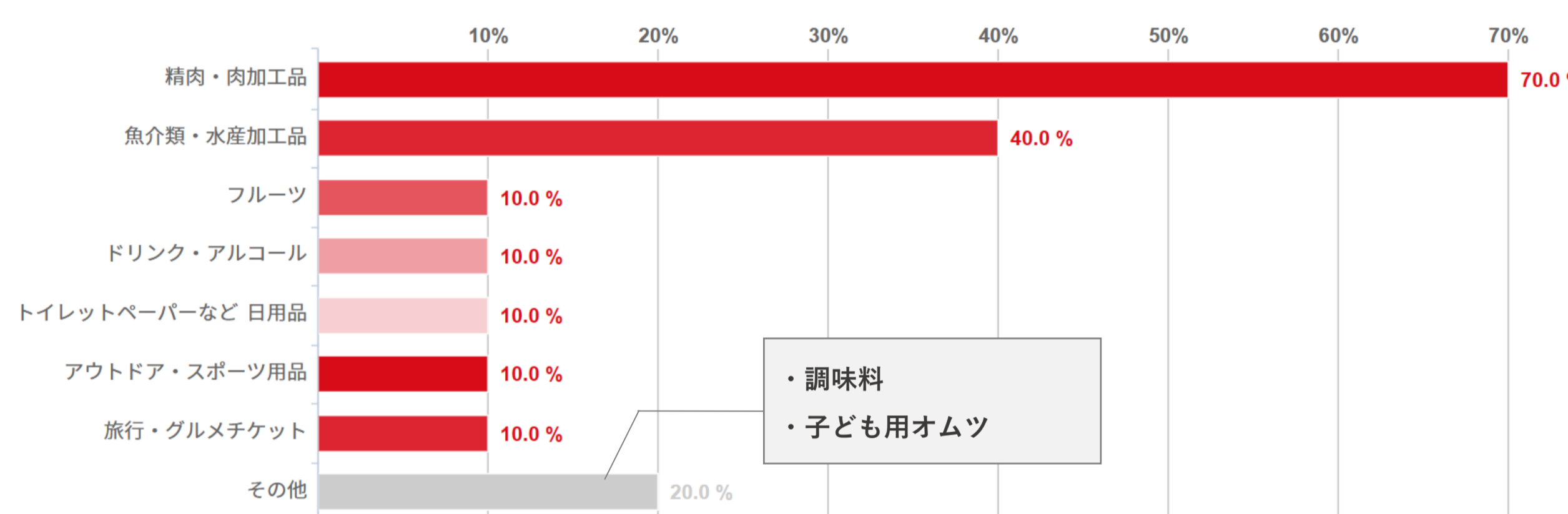
【納税額別】2022年ふるさと納税の返礼品

—今年(2022年)は、どのような返礼品を選びましたか？

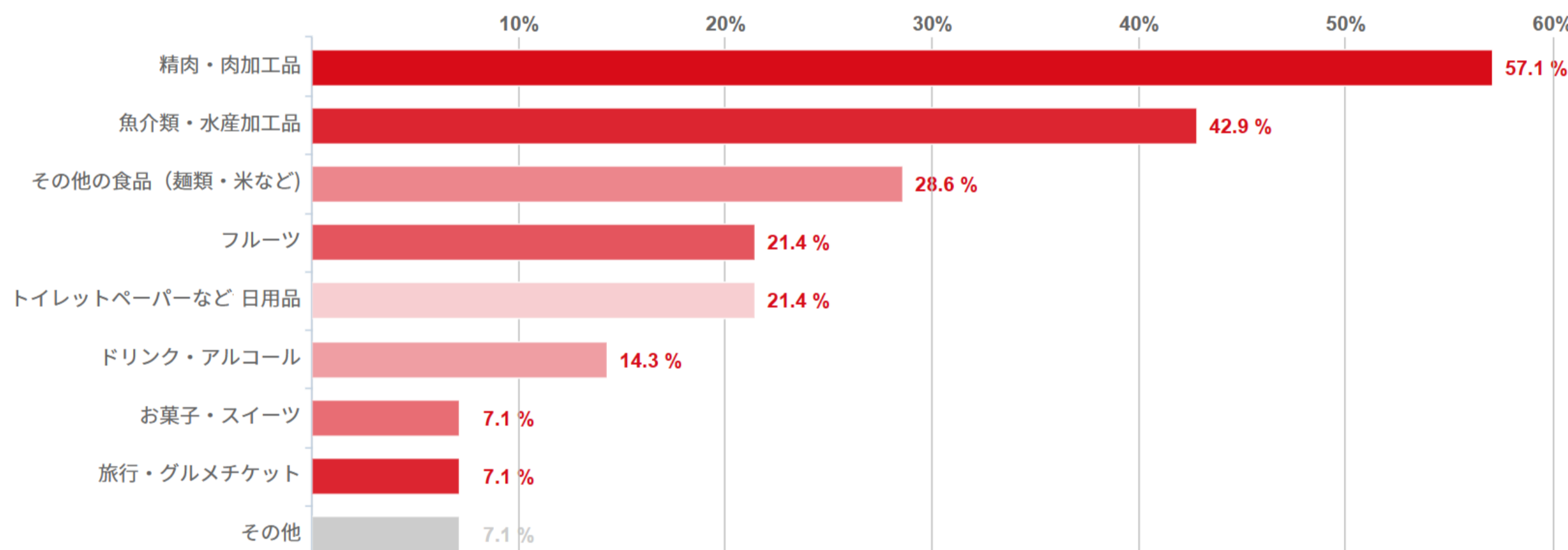
▼ ふるさと納税額 | ～1万円未満



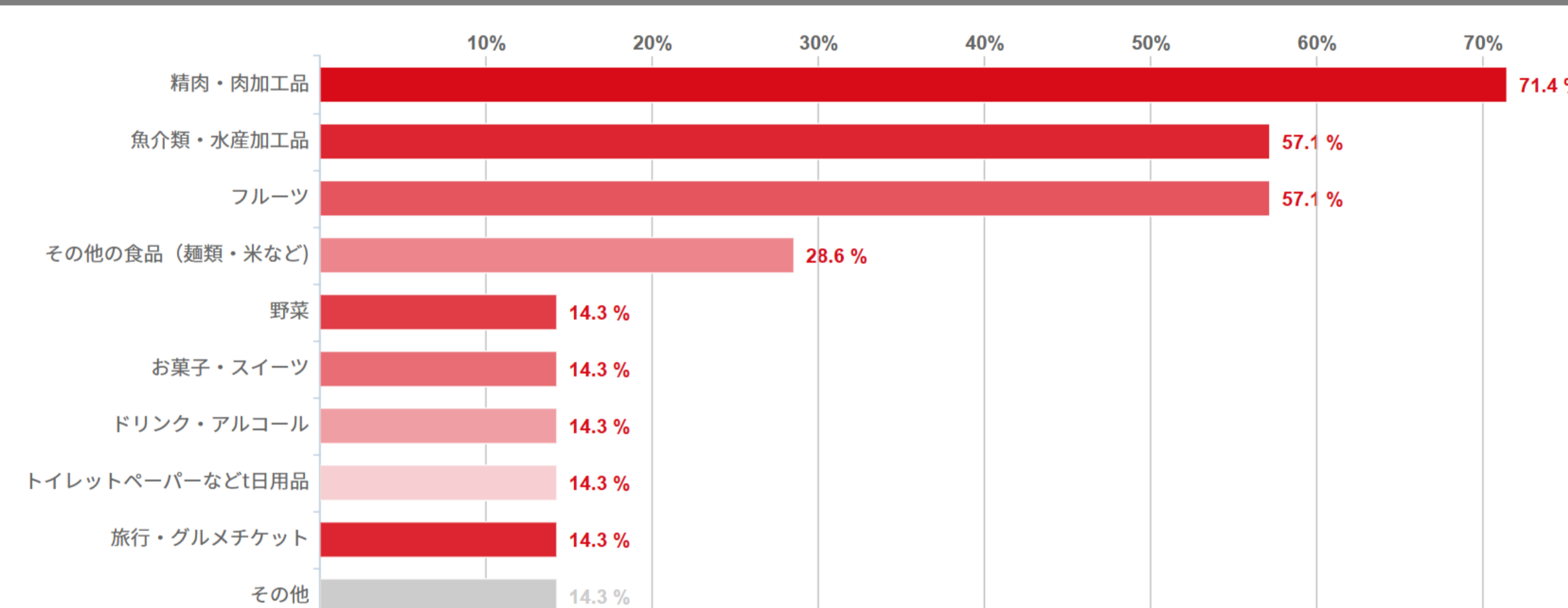
▼ ふるさと納税額 | 1～3万円未満



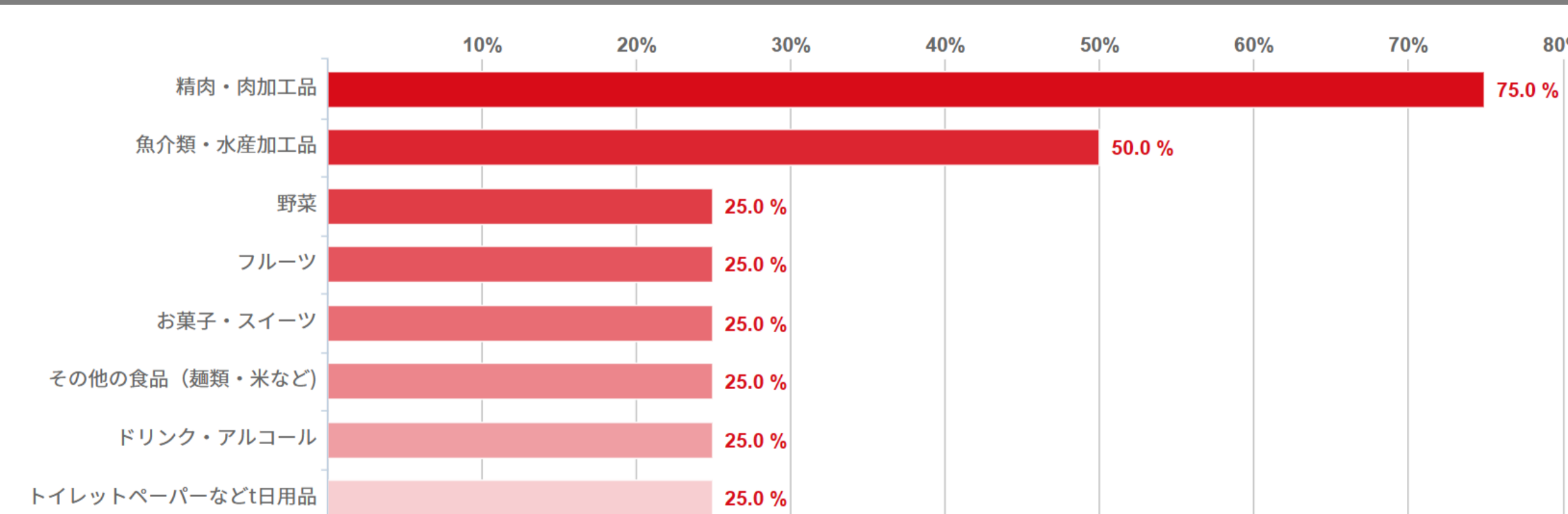
▼ ふるさと納税額 | 3～5万円未満



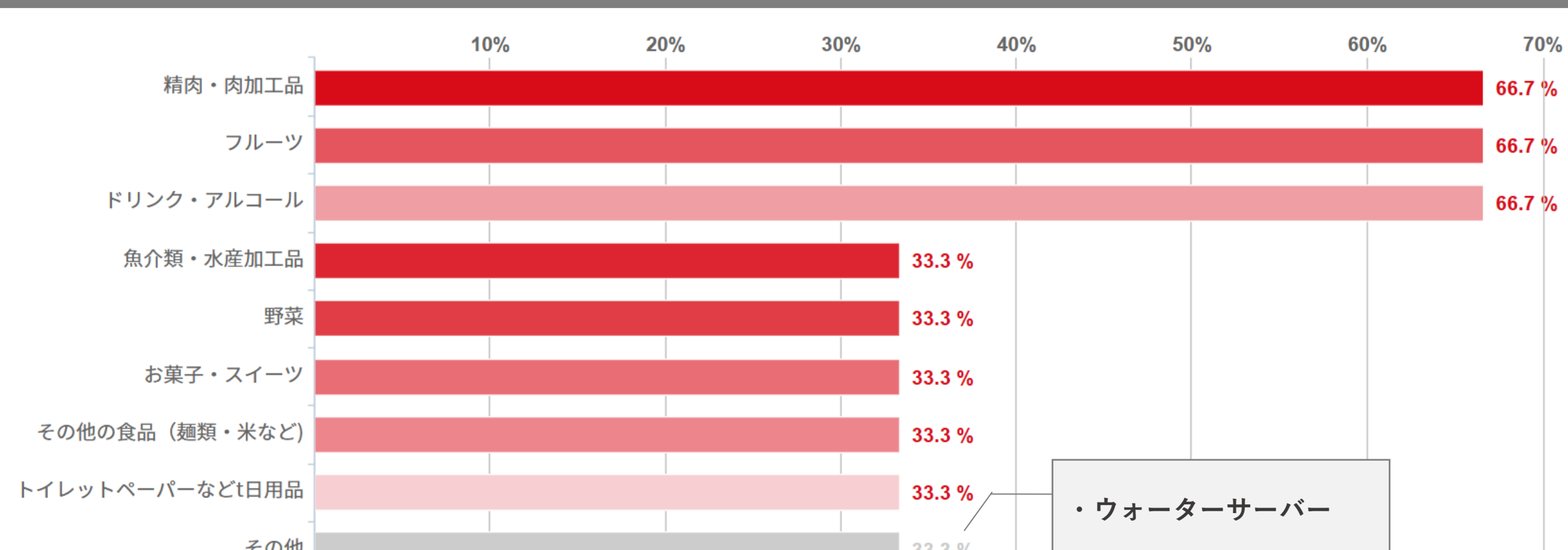
▼ ふるさと納税額 | 5～7万円未満



▼ ふるさと納税額 | 7～10万円未満



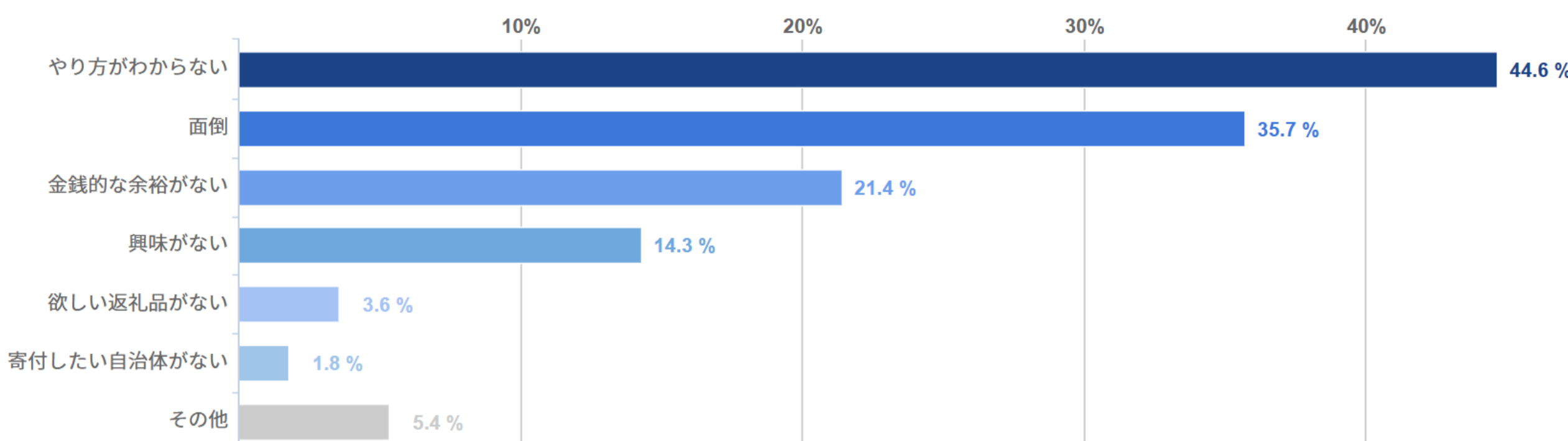
▼ ふるさと納税額 | 10万円以上



ふるさと納税を利用しない方

ふるさと納税を利用しない理由

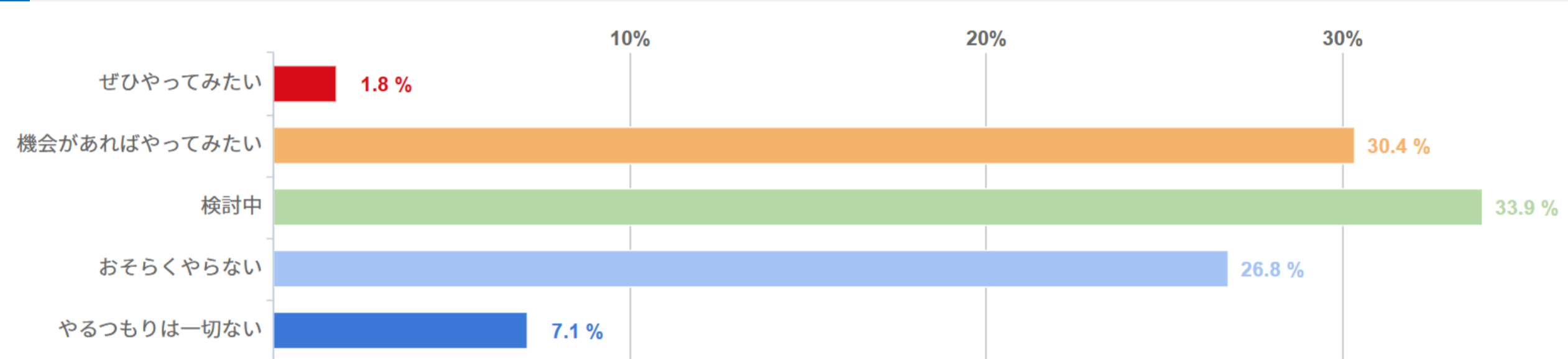
—ふるさと納税をしない理由を教えてください



ふるさと納税を利用しない方

今後のふるさと納税への意欲

—今後のふるさと納税利用への意欲を教えてください



ふるさと納税のメリット

—ふるさと納税の良い面（メリット）について、あなたの個人的見解を教えてください

▼控除が受けられる

- 寄付した金額分の節税ができる
- 2000円の自己負担だけで実質税額控除と同様の効果がある
- 節税になることと、返礼品がもらえること
- 翌年の所得税の還付・住民税の控除が受けられる
- 所得金額に応じた控除を受けられるので節税になるし、寄付にもなる
- 自分のほしいものが税金対策になる。楽天とかでふるさと納税が楽にできる
- ふるさと納税の金額が節税になり、かつ返礼品がもらえる
- 購入金額分の節税ができ、お得感がある
- 納税に対する負担感がほんの少し緩和される
- 返礼品ももらえて、節税になるにネットで簡単に選べてできるのでメリットしかない
- 返礼品があり、税金の控除も受けられるので金額以上にメリットが大きい
- 税金対策に有効である、返礼品が選べるくらいしかメリットを知らない
- 地方自治体に寄付をしながら、節税に近いメリットがあり、返礼品も受け取れる
- もちろん色々な県の特産物が食べれたりとかあるが、節税になるのでいい
- 返礼品の購入感覚で税の支払いができる。結果的に節税につながる
- その土地の特産品みたいなのを貰えつつ節税対策につながる

▼返礼品がある

- 単なる金銭の寄付でなく商品を受けとれる
- 納税により、品物が手に入れることができる
- 地方の名産品が、税金を支払うという事で手に入るのはいい
- 返納品がもらえる事で、普通に税金を納めるよりもお得な感じがある
- ただ納税するはずの税金が他の品に変えるメリットがある
- どうせ払わないといけない税金を、返礼品に変えられてお得感がある
- ただ減るだけの税金の支払い分の所得で好きなものを頼んで美味しくいただける
- 同じ納税額でもふるさと納税には返礼品が付いてお得になっている
- 普段お取り寄せのような機会がないので楽しい。また、それが節税になり、あまり手間でもないこと
- 支払う税金の有効活用ができる。好きな日用品等に代えることもできる
- しなかったら、税金払うだけになるけどしたら何か貰えるところ
- 親族にプレゼント出来る。北海道などの美味しい海鮮が食べれる
- 納税分で地方の普段は買わないような食品が手に入るのにお得だと思う
- 減税される分商品がもらえてお得感がある。前から利用させてもらってる
- 普通に納税するよりも、各地の名産品などを安く購入することになるから
- 節税対策と返礼品がもらえるため、お得感があるので、取り組むべきもの
- どこの地域にでも寄付できるので欲しい返礼品がある所を選んで寄付できること
- 住民税だけ支払うよりも商品に変えた方がうれしい気持ちになる
- 税金の控除ができ、返礼品がうけとれ、さらに地域限定の特産品がもらえるところ
- 住民税として払わないといけない分の一部を寄付することで、返礼品が貰えるのでお得になる
- 納税や寄附をしながら、品物を楽しむことができ、ワクワクすること
- どうせ払う税金なら欲しいものがもらえるので得した気分になる
- 結局税金払うから税金払って自分の欲しい物がもらえるからとてもいい
- どうせ納税するなら、何かしらの形で還元される方がお得に感じる
- たった2,000円の手数料だけで全国の返礼品を手に入れることができる
- ご当地の特産物が食べられるところが良い点であり、お互い利益がある！
- 寄付した地方からの返礼品を頂けることや国からの控除が受けられるところ
- 現金だけの納税より、物も貰えるお得感がある。やはり返礼が貰えるのは嬉しい
- 返礼品分お得だと思う、返礼品を選んでお得だと思う食料品の注文ができ食費の節約になっている
- 特産品が買えるのでなかなか手に入らないものも買えるので嬉しい
- 税金の支払いを少なくでき、魅力的な商品が多いので選ぶのが楽しい
- 節税もできた上で普段食べることのない物を取り寄せれたりするため、とてもおすすめ
- 自身の居住地に納税しても、行政サービスの恩恵を感じられないが、返礼品という形でサービスを受けられる点

▼地域貢献ができる

- 納税したい自治体を選べる
- 地域に貢献ができる
- 今後、移住したい自治体が出てくれば、その市町村に、納税することができる
- どの市に貢献するか選べる
- 地域に貢献出来て更に返礼品が貰えてお互いにメリットがあると思う
- 都心部に比べ税収が少ない地域では 個人負担が大きい為その軽減に繋がる
- ふるさと納税を行うことで、地域の活性化と自身の収める税をまかなえること
- 全国の特産物などを気軽に 楽しめるとともに、こんな街があるんだと勉強になる
- 同じ税金を納めるのに何かと変えれたり、地元や地方の活性化になる
- 応援している自治体に寄附できるところ
- その地域の特産品が味わえ、その上お得感もあり楽しめていいと思う
- 自分の応援したい自治体に寄付でき、なおかつ節税になる
- 自分の好きな自治体に寄付が出来て好きな返礼品がもらえるのが良い
- 地方への協力支援と、返礼品があって同じ納税額でもお得感がある
- 節税しながら何かをもらえるところと自治体に自然も貢献できるところ
- 節税できて返礼品ももらえるため。地方の活性化にも繋がるいい取り組み
- 節税効果があるのと、寄付金という項目で還元したい地方にお金を提供できること
- ふるさと納税をすることでした地域のことを知ることが出来るし、貢献が出来る
- 希望する使いみちに寄付金を指定できる 希望する返礼品がもらえる
- 各自治体への興味が抱けるのと調べるきっかけになる
- 思い入れのある自治体に貢献できるのは嬉しいところ
- 過疎地域が活性化して復活していくように感じる
- 納税をした市町村に貢献でき、本人も税金が控除され特産品が手に入る
- 地域おこしと雇用に繋がったり 特産品のアピールになると思うから付与したい自治体を選べる事と税金対策になる事と割と良い返礼品がいただけるイメージ
- 応援したい自治体に寄付でき、所得税の還付、住民税の控除が受けられ、返礼品がいただけるのでありがたい
- 返礼品を選ぶ際に各地域の特産品や情報を知れるため、その地域に対して親近感を抱き応援するきっかけにもなる

▼そのほか

- お金に余裕があれば、ふるさと納税を上手く使えばお得だと思う
- 自分にとってのメリットがいまいち把握できてないので、申請したことがない
- あまり考えたことがなく、したい人はすればいい。とらわれることなく自分ができることをすればよい
- 今までは利用したことがなかったが、今年は利用してみようとおもった
- 制度そのものへの関心が薄い為、内容ややり方が理解できていない
- よくテレビ等で見聞きするが、実際にはどのようなになっているかわからない、ただ返礼品は魅力的内容を理解した上でならいいが金銭面で余裕がないので、メリットが明確になれば利用出来ると思う

ふるさと納税のデメリット

－ふるさと納税の悪い面（デメリット）について、あなたの個人的見解を教えてください

▼内容・仕組みの煩雑さ

- 節税になるとはいえ、出て行く金額はわからない。具体的な得がわかりにくい
- 制度が複雑でわかりにくく、煩雑さがある。控除額が低めで返礼品も少ない
- 仕組みがわかりにくい。金額も幅があるので更にわかりにくい
- やり方がわからないので、やり方をわかりやすく教えてもらう機会が必要
- 方法がよくわからない、返礼品を探しているうちに結局面倒になって辞めてしまう
- どれくらい得になったのかがいまいちよくわからない
- ふるさと納税の仕組みそのものを理解するのにわかりづらい
- ふるさと納税をしても、ほんとに申告の時に優遇されるのかがわからない
- 仕組みはわかるけど、流れがいまいちわかりづらい。もっとわかりやすくしてほしい
- やり方が分らないので、もう少し具体的にわかるようにしてほしい
- 仕組みがわかりづらく、やりたいけど面倒くさそうなイメージ、どのくらいの額できるのかあやふやふるさと納税をするためのお金が必要なのと手続きの手間がかかる
- ふるさと納税した分が、住民税等から差し引かれているはずだが、あまり分からないので、節税できている実感が湧かない

▼返礼品

- 品数がまだ少ない。食品は豊富にあるが、期限があり、保管場所にも困る。
- ふるさと納税に対して特に悪いイメージは持っていないが、しいて言えば欲しい商品がないときがある
- 自分が住んでいる自治体にした場合は返礼品が貰えない
- 最近では返礼品があまりお得な物が無くなってきた
- 商品到着までが少し長い
- 基本的に大量になるので、時期がかぶって一気に頼むと冷蔵庫が溢れる
- 返礼品が地域によって異なること。自分に合う返礼品がなかったらあまり面白くないかなと思う
- 品物をもっと安く買える場所もあるのでモッタイナイと思ってしまう
- 返礼品は価格に見合うものではないので、過度の期待は宜しくない
- 納税金額に対しての返礼品が金額に対して反比例しているように思える
- 納税の金額が割に合わない 返礼品も数多くあまり期待できない
- 商品によって届くのが半年後とかのものがある
- 通常の商品値段よりやや高め。品物の種類が少ない
- 返礼品の中身がわかっていれば別だが、気に入った商品がないこと
- たまに、ふるさと納税だからといってあまり品質のよくないものがあること
- ふるさと納税の楽しみとして返礼品があるが自分が思っていたものと期待外れが有りそう
- なんでも好きなものを買えるわけではないから。合うやりかたが分からない

▼寄附上限額

- 寄付金限度額がきめられている点
- 自分がどれだけの金額をふるさと納税で使っていいかわからない
- 控除限度額を超えると、超えた分は自己負担になる
- 控除限度額を超えると損になること
- 2000円は自己負担。控除限度額を超えた場合も自己負担になる
- 節税効果を最大限発揮するには、事前に所得がどれぐらいになるかを計算しておかないといけない
- 最終的な上限金額が分からないので、上限金額ギリギリを攻めるのが難しい
- 個人事業主は所得の確定額がわかりにくくどの程度の額を利用できるかギリギリまで予測がつけにくい
- 12月に所得を試算するのが面倒くさそうな感じがして、やっていない
- 控除に上限額があるところ。越えると自己負担になってしまうところ
- 所得に応じて、寄付額がある程度決まっていること
- 個人事業主として、毎年いくら分を使っていいのか細かく算出しなければいけない
- 納税額が幾らになるかを考えてそれ以下にしないと手出しが高くなること
- 上限額がわかりづらいので毎回注文するのに怖くなる。計算すればいいものの、計算式が複雑なため手間がかかる

▼地域格差

- 自治体ごとの納税に対する実際の運用、利用などの公表がマチマチであること
- 悪い面は魅力の無い地方が税制面での収入減少に繋がってそこに住んでいる人達の負担が増えること
- 人気のある返礼品がある地域に集中してしまうので、人気のない所に寄付金が入らないところ
- 人気のある特産品があるところにばかり納税が集中してしまうこと
- 在住地の自治体に寄附しても返礼品はもらえない。人気のない自治体は大丈夫なのかと思う
- 住んでいる所の税収が減ると偏りが出る可能性があるところだと思う
- 見返りを求めすぎでしまうことや集中して同じ場所に納税をしてしまうこと
- 自治体により力の入れ方に違いがあり、ふるさと納税の収入に差がでてしまうこと
- そもそも税収が少ない地方都市で返礼品等の魅力の無い地方都市ではますます税収が減る可能性が有る
- 居住地の税収が減り、行政サービスを維持できなくなる可能性がある。また、税収の偏りが生じる
- 納税の隔たりがでるため、ふるさと納税がない地域や、魅力のないところは淘汰されてしまいう
- 自分の住んでいる所に税金を払わないと意味がないと思うが住んでない所に税金を払っていること
- 市町村の税収に大きな差が生じてしまう。大都市の税収が減ることに対して不満の意見が出ており、今後ふるさと納税が継続されないかもしれないこと

▼面倒

- とにかく面倒臭そうでそもそもやろうと思えないところ、何が正解かわからない
- 手続きが面倒
- 申請が必要なこと
- 購入履歴管理が面倒
- 手続きも面倒な部分が多いこと
- 返礼品を探す手間を楽しめるか、面倒に思うかだと思う
- 欲しい返礼品がなければ、する意味があるようには思えないのと、品を探す時間が勿体無い
- 手続きがややこしいイメージがあり出来ないという人が多そう
- 手続きが面倒。地方自治体がたくさんあり、選ぶのに時間がかかる
- はじめるのに面倒な手続きがあるイメージがある。商品を選ぶ手間がある
- たくさんの商品の中から選ぶ必要があるので時間がかかってしまうこと
- 手続きが面倒。控除上限額があまり高くはない。場合によっては控除できずに損となる場合がある
- 寄付したい自治体を自分で選んで返礼品を選択して決めるので面倒な部分がある

▼資金繰り

- 先にお金を払うことになる。
- お金に余裕がないと、ふるさと納税をするメリットがないと思う
- 金銭的余裕がないとできないこと
- 生活費に余裕がないと行えないこと
- 事前に預金がないとできないため、最初は少し損した気分になる
- 手持ちがないと厳しいと感じる
- 早めに納付しないといけない事と、返納品によってはかなり後に送られてくる
- 金銭面に余裕がある人しか利用出来ない点と分納でやっと納税してる人にはメリットが無い

▼その他

- 個人としてデメリットは感じないが、国や自治体として税収が減るのではないかと気がなる
- 前年に比べて円安の影響なのか同じ金額でも量が少なくなったりしているように思う
- 年収が上がれば上がるほど、返礼率が上がるため、富裕層との格差が広がりやすい
- 年間6自治体以上した場合、確定申告が必要になる
- サイトが沢山あって色々見比べるのに時間がかかる。不意なタイミングに返礼品が届く
- 仕組み上は寄付にあたるが、返礼品目当ての利用が多い、結局は税金の無駄遣い
- ふるさと納税しても、自分の町の納税もしないといけないのでそこはデメリットだと思う
- すぐに節税されたかどうか確認できないこと
- 少額ではあるが自己負担があることはデメリットなのかなと思う
- 節税になるわけではないらしいし、東京出身なので納税したい地方もないのでメリットはない
- 取り組み内容については当初、自治体任せだったはずなのに、総務省？が横やりを入れてきて少しつまらない内容になってしまったこと
- 返礼品の内容などで納税者の動向が左右される制度については、果たして持続性があるか否かについては疑問点もある

個人事業主のふるさと納税に対する課題

— 個人事業主全体のふるさと納税に対する課題・問題点を教えてください

▼制度全体に関する課題

- 認知不足、めんどろさ、何がもらえるしかわからないメリットの改善
- ふるさと納税を実践していないし、理解していないためよくわからない
- ふるさと納税の名前は知っているけど、どんな仕組みなのかわからない
- ふるさと納税をすることによるメリットのアピールが少ないと思う
- 内容がイマイチ分からないし、この情報が一方的で調べないと分からない
- お金持ち、所得の高い人に優遇される。所得の低い人にはあまり恩恵を受けない
- お得感が減ってきたと聞くので、もっとお得感が戻れば良い
- まだまだ詳しく知らない人もいるので、みんながやれるようになると良い
- 返礼品の競争など、自治体に対する寄付よりかも、物の良し悪しに基準がある
- Amazonギフト券や、グレーな返礼品があったり、税金を集めようと、色々問題がでる
- ふるさと納税の制度が長期に渡り継続されるかわからないこと
- 年収によって収入が高ければ使い道が広がるが、年収が低いと使い道が制限される場所
- 実施もしくは未実施してる方々がどうかはわからないが、金銭面に余裕があるならやってもいいと思う
- 今ではかなり浸透してきているとおもいますが、まだ制度の内容がよくわかってない人が多いのでわかりやすい広告などすべき
- 当初は仕組みが分かりにくく怪しさを感じていた、理解するのに時間がかかった、今はCMなどでかなり浸透しているため安心して利用できる
- 返礼品を貰う為のイベント性は理解しているつもりですが、実際の運用、利用など自治体ごとにきちんと公表する基準などもグレードアップしていく必要があると思う
- 個人についてはうまく利用すれば得になる仕組みだ、が事業の活性化などに生かされていない一部の業者にしか還元されていない
- 自治体で寄付金の使用用途が公表されていない所もあり寄付金がきちんとした形で使用されているかわからない。※きちんと使用されれば、個人事業主としては個人一人一人へ還元されるが、現状不透明な点が多い
- ふるさと納税に対する関心がないので、課題も問題点もないが、返礼品が貰えて、節税対策になるということだけで、知らない土地に納税するのは、納税の考え方として正しいのか疑問がある。その地域を助けたい、そのお礼として名産品が貰えたのならふるさと納税をしようと思うかもしれない
- 個人事業主におけるふるさと納税の問題点は、制度の認知度が低い為に利用率が著しく低い状況にあると認識している。また本質とは離れた返礼品を目的とした寄付や自治体での競争が多く見られる点が大きな問題である。その結果、制度自体への懐疑的な認識が広く浸透しているように感じる

▼税金のメリットに関する課題

- 所得税と住民税から引かれるがどっちかにしてほしい。わかりにくい
- 納める側の立場からするともう少し節税してほしい
- 日本は税金も高いので無理にふるさと納税をしなくてもいいと思う
- たいして節税にもならず時間を浪費して特に必要のないものを選んでしまう
- 簡単に（売上－経費）の計算ができる様式があればもっと利用しやすい
- ふるさと納税の上限金額が売上によってかわるので分かりづらい
- 一番の問題は計算式が複雑で払い過ぎのリスクがあるということ
- 自分の収入でどの位購入できるのか理解できない
- 自分の所得では、いくらにするといいのか、しっかりと1度理解する点
- 収入に応じた限度額の計算が面倒であったり、まだ認知が足りてないところ
- 一年の稼ぎをわざわざ計算して、ふるさと納税の品を選ばないといけないこと
- 売上が不安定な場合には、納税額が読めないのが最後まで使うか迷う
- 控除の上限がわかり辛い。また収入によっては控除を受けられない場合がある
- ふるさと納税をすると、もっとわかり安くどのくらい差益があるかわかり安くしてほしい
- 個人事業主は、所得金額が変動するため控除額の上限を把握しにくいこと
- ふるさと納税すると、どのくらい税金が少なくなるのかわからないので知りたい
- 本当にメリットがあるのかよくわからない。わかるように教えてほしい
- 個人での仕事だとその年の収支が一定でないため、いくらふるさと納税するのがベストな金額なのかわかりにくいところ
- 節税対策のためとは言っても、実際にはどのくらいの節税につながるのかわからないとムダな出費につながる可能性がある
- 自身が確定申告する際に自分の見込まれている金額の予想をしないといけない。それに合わせて金額を割らさないと損してしまう恐れがある

▼手続きに関する課題

- 12月までにふるさと納税をしないといけないところ。確定申告前後にできればより行いやすいと思う
- そもそも“ふるさと”の意味。個人事業だと毎回計算しないといけないのが面倒
- どれだけ手間なく楽に新規顧客を獲得できるのかどうか。申請の手間を減らす
- あまりそういう場面に出会うことが少ない。収入も少なめなので利用しない
- まだしたことがないのでよく分かりませんがどの方でも分かるようにしてほしい
- まだふるさと納税に対しての詳細についての知識が持っていない
- ふるさと納税に対する課題は誰でも申告しやすいような制度にしてもらいたい
- 手続きが難しいというイメージをなくさないで利用する人が増えなそう
- 選択が面倒。サイトによってある程度フィルタできるが、それでもまだまだ多く選ぶのが難しい
- 確定申告での申請となるためワンストップ特例制度などが個人では使えない
- いくらまでやったらいいのかの基準やその後の申請方法の周知があまい
- 一昔前に比べてわかりやすくなったものの、面倒な部分はまだまだ多いと感じる
- やり方がわかりづらい。どのようにすればいいのかわからない
- 仕組みはわかるけど、流れがいまいちわかりづらい。もっとわかりやすくしてほしい
- やり方が分からないのでまずやろうとは思わないので自治体からアプローチしてほしい
- 会計ソフトを使用しない場合、確定申告がわかりにくい
- ふるさと納税の手続きをしまえばお得ではあるが、返礼品を探すのが楽しみでもあり面倒でもある

▼返礼品に関する課題

- 納税額に対して、欲しいものがないイメージなので、内容を考えてほしい
- 自分の県の返礼品がもうちょっと魅力的なものだと良いと思う
- ふるさと納税に対する課題デメリットや注意点もわかりやすく理解すること
- 税金対策で高額なふるさと納税をして品物が溢れてしまうことがある
- 多くの方が返礼品を期待していて、返礼品が増えるほど支出が増えてしまうこと
- 年収が上がるほど返礼率が上がるため、富裕層との格差解消が問題点であると認識している
- 商品のジャンルを増やしてほしい。商品を届けるスピードを上げてほしい
- せっかくするなら自分が欲しい物や食べ物を選びたいと思うので厳選して行こうと思う
- もっと分かりやすくしてくれれば自分もやるかもしれないがめんどくさそう
- 返礼品の質や数を増やしていかないとインターネットで地方の産物が簡単に買える時代において衰退するのでは
- ふるさと納税をしたことがないのでわからないが自治体ごとに返礼品の差が高すぎると国が止めに入るのでは良くない
- 報道の限りを見ると地方を応援するの気持ちが反映されていると言うより、よりお得感の高い返礼品を提供する自治体に寄附が集まった色合いが強い
- 選ぶ商品の品質やお得感を知りたい 別々のサイトで購入すると商品の品質や今年の購入金額がわかりづらくなる

▼地域格差に関する課題

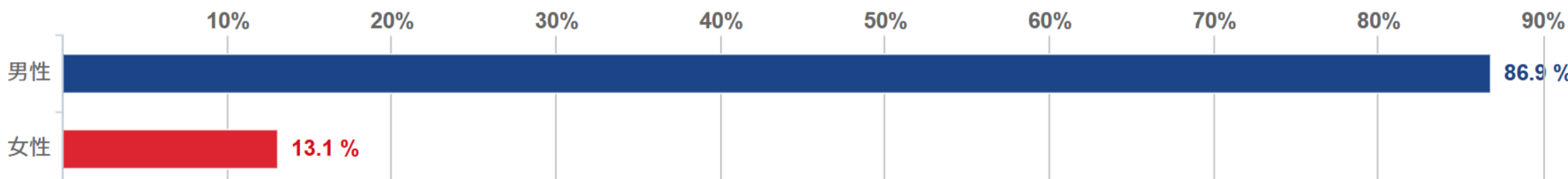
- ふるさと納税に対して、自治体ごとに返礼品の差が高すぎると国が止めに入るのでは良くない
- 魅力の無い地方が納税が少なくなってしまうこと
- 返礼品の魅力の差で、税収に地域格差が生じること
- 現在の地方格差による、税収格差の抜本的解決になるかは疑問が残る
- 運送業で特に無いが、もっと自治体がアピールしない限り、課題はクリアしない
- 一部の自治体に寄附が集中して魅力的な返礼品の無い都市部などの税収が減る可能性がある
- 見返りの良いところばかりに集中してしまうので、分け隔てなく均等に行うことが大切である
- 一度買うと自治体からのメールが凄いくる。税金がそっちに回っているのかと感じる
- 自分が納税したい市町村を選べるのは良いと思うし、ご当地の返礼品で楽しめるのは良いが偏りがでる市町村も出るのだろうか？
- 都市部では大企業も多く…ふるさと納税で多少税収が下がっても問題は無いと思われるが、地方では高齢化も進み納税者も少なくなり、税収確保が難しくなる可能性が有る

▼その他

- もっとやって当たり前の空気感、人々の話題に出てこないと増えることはないと思う
- インターネットを使いこなせない、お年寄りにはふるさと納税の恩恵を受ける事が出来ない
- まずふるさと納税が出来る程 売上があるかどうかと思う ある程度利益があれば
- まだやった事がないのでよくわからないが、上手く活用している人とそうでない人がいる？
- 自分にとってどれだけのメリットがあるのか正直よくわかっていないので、まあいいか、となってしまうこと
- 寄附できるぐらい売上げに余裕があればたくさんできると思うが、売上げが少ないとなかなかそこまでの余裕はない
- 若い世代だったらふるさと納税に興味もないのかなと思うので若年層もやりたくなるような何かがあればと思う
- ふるさと納税によって様々な種類の生活費を圧縮することができるが、ふるさと納税で主要な生活費となっている家賃の支払いなどができないこと

本調査の回答者属性

▼性別



▼年齢

